

2014年10月14日

**AGCの軽量ガラスとFRPを使用したメガソーラーが本格稼働
～北九州市最大のメガソーラーの耐久性と施工性を向上～**

 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、本日全面運用を開始した「エネ・シードひびき太陽光発電所」で、AGCの化学強化特殊ガラス「Leoflex[®]」と当社子会社のAGCマテックス株式会社のFRP（ガラス繊維強化プラスチック）素材「プラアロイ[®]」が採用されたことをお知らせします。

同発電所は、エネ・シードひびき株式会社が運営し、発電規模20.5メガワットの北九州市最大のメガソーラーです。三菱電機株式会社が開発した両面ガラス軽量ソーラーパネルには、軽くて強い「Leoflex」が両面に使用され、架台には軽くて錆びない「プラアロイ」が使用されています。いずれも軽さと高い耐久性が特長であり、メガソーラーの長寿命化に貢献するだけでなく、施工時の作業負荷を大きく軽減しました。

【両面ガラス軽量ソーラーパネル】

三菱電機株式会社が開発した両面ガラス軽量パネルは、耐湿性に優れるガラスを両面に使用することで、長期間にわたりパネルの劣化を抑え信頼性を高めています。さらに、ガラスを薄くて強い「Leoflex」にしたことで、通常の片面ガラスのパネルと比べて約2割の軽量化を実現しました。

【FRP架台】

架台は、軽くて錆びない「プラアロイ」を用い、厳しい環境条件においても高い耐久性が期待されます。また、架台の一部には、株式会社NTTファシリティーズと共同開発した施工性の高い新設計の架台を採用し、施工時の作業効率を大きく改善しました。なお、この新設計の架台は2014年度グッドデザイン賞を受賞しました。

エネ・シードひびき太陽光発電所は、沿岸部に立地するため、塩害によるソーラーパネルの劣化や架台の腐食などが懸念されていました。このような環境下でも、軽量ガラスやFRPの特長を活かした製品を採用することで、それらの課題を解決し、メガソーラーの耐久性と施工性が向上しています。

AGCは、経営方針 *Grow Beyond* の下、「環境・エネルギー問題に技術力で貢献」を成長戦略のひとつに掲げています。今後も、お客様に最適なソリューションを提供することで、成長基盤の強化・定着を図ります。

◎本件に関するお問い合わせ先：  旭硝子㈱広報・IR室長 小林 純一
（担当：小田原 TEL：03-3218-5603、E-mail： info-pr@agc.com）

<参考資料>



【エネ・シードひびき株式会社について】

名 称	エネ・シードひびき株式会社
所 在 地	福岡県福岡市博多区千代一丁目１７番１号
設 立 年 月	平成２４年１２月２０日
資 本 金 (出 資 割 合)	９３５百万円 (エネ・シード株式会社※５１％、旭硝子株式会社４９％) ※西部ガス株式会社１００％出資
代 表 者	代表取締役社長 西田 和則
事 業 内 容	太陽光発電事業

【エネ・シードひびき太陽光発電所について】

施 設 名 称	エネ・シードひびき太陽光発電所
事 業 会 社	エネ・シードひびき株式会社
建 設 地	福岡県北九州市若松区向洋町１８－１（旭硝子所有地）
敷 地 面 積	約２５万６千㎡
建 設 期 間	平成２５年４月～平成２６年９月
全面運用開始	平成２６年１０月１４日
発 電 規 模	２０．５MW ※年間発電量は、一般家庭５，８００戸の年間電力使用量に相当
投 資 額	約６０億円